

トマト黄化葉巻病耐病性品種の選定

～半促成栽培に適した耐病性品種は‘桃太郎ピース’が有望～

1. はじめに

近年、国内のトマト栽培において、トマト黄化葉巻病は大きな問題となっている。黄化葉巻病の防除対策には、本ウイルスを媒介するタバココナジラミの侵入を防ぐ施設開口部への防虫ネット被覆、薬剤散布に加え、耐病性品種の導入が有効である。そこで本稿では、県内の半促成栽培に適したトマト黄化葉巻病耐病性品種を選定する。

2. 材料および方法

試験場内のガラス温室の隔離ベッド（幅26cm、高さ140cm）に、株間20cm、ベッド間隔（条間）140cmとし養液土耕栽培を行った。培土は園芸用育苗培土愛菜2号（5-15-10）とバーク堆肥を2:1で混合した。試験には、耐病性品種5品種を供試し、‘桃太郎ヨーク’（タキイ種苗）を対照とした（表1）。養水分管理は、OATハウスS1号（9-7-32）、OATハウス2号（11-0-0）をSA処方し、EC0.4dS/m～EC1.5dS/mに調整し、株あ

たり300～900ml/日給水した。施設内の温度は（2月～3月に）最低温度を8℃に保つよう加温した。試験は、2014年12月24日に播種、2015年2月19日に定植、1本仕立てで1花房4果に摘果を行い、6月23日に摘芯した。収穫期間は5月1日～7月16日とした。

3. 結果

収量と果数は、‘桃太郎ピース’が対照の‘桃太郎ヨーク’より多い傾向がみられた。果重は、‘アニモTY12’が‘桃太郎ヨーク’より小さい傾向がみられた。糖度は、‘アニモTY12’が‘桃太郎ヨーク’よりも高かった。クズ果数は‘桃太郎ヨーク’と比べて‘秀麗’で多かった（表2）。

4. おわりに

今回の品種比較試験から半促成栽培に適した黄化葉巻病耐病性品種として、収量が多く、クズ果発生が少ない傾向がみられた‘桃太郎ピース’が有望と考えられる。

（栽培部 堺 勇人）

表1 供試品種の黄化葉巻病に対する抵抗性

品種	種苗会社	抵抗性遺伝子	病原ウイルスに対する抵抗性	
			イスラエル型	マイルド型
桃太郎ピース	タキイ種苗	Ty-3a	○	×
豊作祈願1103	トキタ種苗	Ty-3a Ty-1	○	○
TYみそら86	みかど協和	非公表	○	○
アニモTY12	朝日工業・武蔵野種苗	非公表	○	○
秀麗	サカタのタネ	非公表	○	×
桃太郎ヨーク(対照)	タキイ種苗	なし	×	×

注) ○: 抵抗性 ×: 感受性、病原ウイルスに対する抵抗性はメーカー表記より

表2 供試品種の収量および果実品質

品種	収量 (g/株)	果数 (個/株)	果重 (g/個)	糖度 Brix(%)	クズ果数 (個/株)
桃太郎ピース	4120 a	22.5 a	183 a	5.4 ab	2.8 b
豊作祈願1103	3860 a	21.3 a	182 a	5.5 ab	4.4 ab
TYみそら86	3520 a	21.1 a	166 ab	5.3 b	3.6 b
アニモTY12	3360 a	23.3 a	145 b	5.7 a	5.1 ab
秀麗	3180 a	20.5 a	155 ab	5.4 ab	7.5 a
桃太郎ヨーク(対照)	3570 a	20.8 a	172 ab	5.3 b	2.6 b

注) 収穫期間: 2015年5月1日～7月16日

クズ果: 裂果、尻腐れ果、チャック果、奇形果、小果の合計

a, bの異なるアルファベットはTukey検定(p<0.05)で有意差があることを示す。